

平成27年9月定例教育委員会会議録

- 日 時 平成27年9月16日(水) 午後3時～午後3時18分  
○場 所 櫛引庁舎・教育委員室  
○出席委員 1番 毛呂 光一(委員長職務代理者)  
2番 難波 信昭(教育長)  
3番 佐藤 清美  
4番 佐竹 美津子  
5番 田中 芳昭(委員長)  
欠席委員 なし

出席議事説明職員氏名

教育部長	小細澤 充	管理課長	石 塚 健
学区再編対策室長	本 間 明	学校教育課長	中 野 洋
学校教育課指導主幹	成 澤 和 則	社会教育課長	佐 藤 正 哉
社会教育課文化主幹	岡 部 信 宏	中央公民館長	太 田 ア イ
藤沢周平記念館長	鈴 木 晃	スポーツ課長	小 杉 良 則
図書館長	佐 藤 巖	学校給食センター所長	太 田 功

出席事務局職員氏名 管理課庶務主査 鶴見美由紀

会議次第

1. 開会
2. 市民憲章唱和
3. 会議録署名委員の指名
4. 議事日程 議案なし
5. 報告事項
  - (1) 平成27年度(第58回)高山樗牛賞の推薦状況について
  - (2) 鶴岡市地域子育て推進シンポジウムについて  
～子どもを育むたくさんの手 ～パパ・ママ・家族・地域の力～
  - (3) 藤沢周平記念館開館5周年記念特別企画展(「海坂藩」のふるさと)について
6. 閉会

開 会（午後3時）

委員長 　　ただ今から9月の定例教育委員会を開会する。最初に市民憲章唱和を行う。（図書館長が先唱し、市民憲章唱和）

　　本日の会議録署名委員は、1番毛呂委員に願います。

委員長 　　本日議事はないので、報告事項について平成27年度（第58回）高山樗牛賞の推薦状況について報告をお願いします。

社会教育課 　　高山樗牛賞の推薦状況について報告する。高山樗牛賞は昭和33年制定以来、今回で58回目を迎える。これまで一般の部では53名、小・中学生、高校生の部では34校が受賞している。また、小学生、中学生、及び高校生の部については、若い方達の文芸領域への関心を高め、その土壌をつくることを目的として、児童生徒個々の創作活動に着目し、それを顕彰する高山樗牛奨励賞を平成15年度に創設してこれまで19名が受賞している。

　　今年度の候補者の推薦については、5月下旬に関係機関等に推薦を依頼し、8月末で締め切り、別紙の候補推薦一覧の通り高山樗牛賞の候補者に1名、奨励賞には小学校児童及び中学校生徒の部に3名推薦があったことをご報告する。（高等学校生徒の部には推薦はなかった）

　　なお、候補推薦一覧と推薦書については、教育委員会終了後に回収させていただきます。

　　また、候補者の作品等資料について、本日参考までに持参しておるので、ご覧いただきたいと思う。

　　今後の日程であるが、来月10月9日（金）に選考協議会を開催し、その協議結果を踏まえて次回10月21日（水）に開催予定の定例教育委員会においてご審議いただきたいと考えている。受賞式については、12月に予定しているので併せてよろしく願います。

委員長 　　ただ今の報告について、質問、意見はないか。終了後に資料回収ということは今読むということか。

社会教育課 　　そのよう願います。

文化主幹

委員長 　　それでは、少し読む時間を取ることとする。

委員長 　　（資料内容確認後）そろそろよろしいか。それでは次に、鶴岡市地域子育て推進シンポジウムについて報告をお願いします。

社会教育課長 　　鶴岡市地域子育て推進シンポジウムについて、お配りしているチラシに基づいてご案内させていただく。

来月10月12日（月）午後2時から出羽庄内国際村を会場に開催する。「子どもを育むたくさんの手～パパ・ママ・家族・地域の力～」をテーマに、第1部では地域で子育てを支援しているお二方の事例発表、第2部は、恵泉女学園大学大学院教授であり、NPO法人あい・ぼーとステーション代表理事の大日向雅美先生の講演となっている。

よりよい子育て環境について家庭における子育てはもちろん、地域における子育てについても考える機会となればと考えている。子育て家庭だけでなく、町内会長、自治会長、民生児童委員の方々など幅広くお知らせしている。委員の皆様からもご参加、ご周知いただければ幸いである。

委員長

よろしいか。それでは次に藤沢周平記念館開館5周年記念特別企画展「海坂藩」のふるさとについて願います。

藤沢周平記念館  
館長

10月9日から開催する開館5周年記念特別企画展「海坂藩」のふるさとについてご案内させていただく。藤沢周平氏が蝉しぐれをはじめ、武家ものを小説に描いた架空の藩「海坂藩」は江戸時代の庄内地方がモデルと言われており、海坂藩の原風景、いわば海坂藩のふるさとを求めて多くの方々がこの地を訪れている。

この度の企画展では、海坂藩のイメージが確立されるまでの過程と藤沢氏があたかも実在する藩のように書き著した海坂藩の情景を鶴岡庄内に残されている江戸時代の絵図や郷土資料、写真等を展示しながら紹介する。また、海坂藩の味として作品中にたびたび登場する鶴岡の郷土料理のレシピも併せて紹介する展示となっている。作品世界をより豊かに味わい深めていただく良い機会になると思われるので、是非ご覧いただきますようご案内申し上げます。

委員長

よろしいか。その他、報告事項はあるか。

3番委員

高山樗牛賞のことであるが、特別賞のようなものを以前検討することになったが、その後どうなったのか伺いたい。

社会教育課  
文化主幹

昨年度、高山樗牛賞に特別賞を設けて受賞対象の分野を少し広げたらどうかという意見をいただき内部でも検討させていただいたが、これまでの状況として、文芸分野以外の方が該当外で高山樗牛賞の受賞にいたらなかったという経過もあったようであり、さらには近年推薦者の減少、該当者なしということが続いており、この賞自体をどうしようかという検討もなされたところである。

そのような中で、平成15年度に小学校、中学校、高校の部、団体を対象にした賞は廃止して、児童生徒の文学創作の目を伸ばすことを目的に奨励賞ということで、個人賞をつくった。ご質問の研究分野について

の特別賞であるが、学術研究分野の功績を顕彰するものとして酒田市で制定している庄内文化賞というものがある。庄内文化賞は樗牛賞から20年程遅れて制定されたと聞いているが、樗牛賞と同じように庄内地方全域を対象としながらも、高山樗牛賞と受賞者が重複しないよう選定の際には対象から文芸分野を除いている賞である。

以上のような状況を踏まえ、学術研究分野における優れた功績の顕彰については、庄内文化賞がふさわしく、さらには県全域を対象としている齋藤茂吉文化賞もあるので、そちらの方に積極的に推薦していきたい。

よって、高山樗牛賞の受賞対象はあくまでも文芸評論のみとし、特別賞の制定については今のところ考えていない状況である。

委員長

よろしいか。

3番委員

庄内文化賞や齋藤茂吉文化賞の方にどんどん推薦していただきたい。

社会教育課

高山樗牛賞の場合は形あるものであるが、庄内文化賞の場合は活動そのもの、例えば研究活動なども評価対象となるので、そちらの方に積極的に推薦していきたいと考えている。

文化主幹

委員長

よろしいか。

3番委員

はい。

委員長

他になれば、これをもって9月の定例教育委員会を終了とする。

閉 会 (午後3時18分)